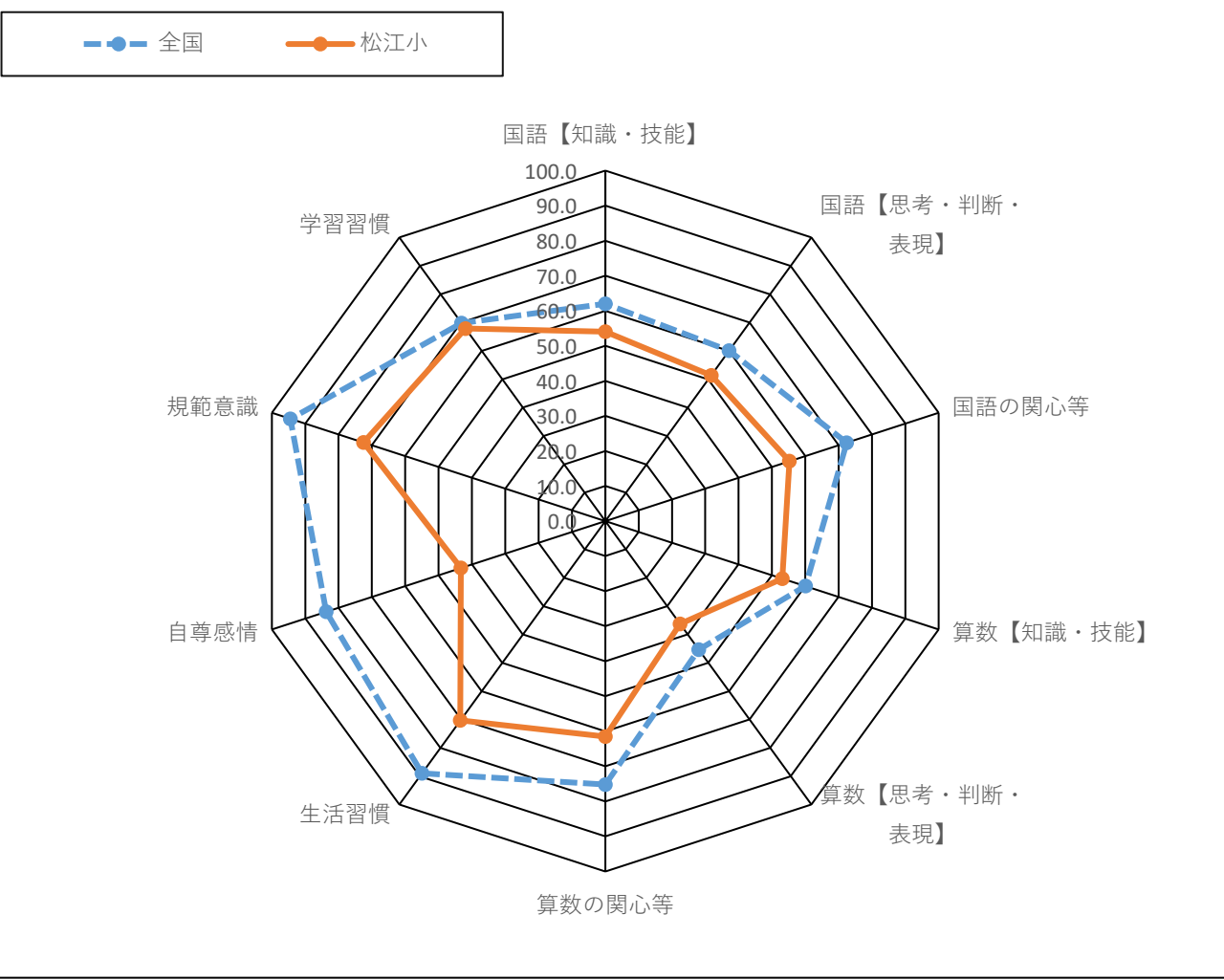


令和 8 年度全国学力・学習状況調査結果における課題分析表

●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の本校の様子



【考察】
国語、算数の双方について、すべての項目が東京都及び全国の平均を下回っている。国語では「読むこと」「記述式」に、算数では「変化と関係」に、差が大きく表れた。知識・技能には平均との開きは10%以下であることから、応用力を要する問題への理解に課題があると考えられる。また、国語・算数・児童質問に、未解答・未回答が見られたことから、「問題文を読み、正対して答える。」ということに抵抗感があることが予想される。

【授業改善のポイント】
・知識・技能の定着を図ること
漢字や四則計算等、基礎的な知識技能を確認する時間を設ける。反復して取り組むことで、定着度だけでなく、集中力の向上を目指す。
また、本校で行っている「よむYOMUワークシート」を、学年の実態に応じた難易度で行い、スモールステップで定着度を高めていく。「学力アップタイム」も同様に、実態に応じた難易度の問題から取り組み、既習学習の定着を図っていく。
・問題文の意味を理解すること
各教科でワークテストを実施する際は、設問を読み上げるなどして、「何を問われているのか・答えるのか」を児童に対して明確にする。「一つ一つの設問を理解して答える」ことを繰り返し、定着させていく。

【結果】
国語・算数とも、全項目において東京都及び全国の平均（以下、各平均）を下回る結果となった。また、家庭学習を「全くしない」「1時間以下」と答えた児童が58%と、各平均を大きく上回っている。スマートフォンの所持率や使用時間についても各平均を上回っており、学校での授業や放課後の過ごし方についても、現状を改善するための指導が必要になると考える。

【家庭・地域への働きかけ】
保護者会、個人面談、家庭学習週間の機会を通して、学習習慣の大切さを共有する。また、児童に合った課題に取り組めるよう、タブレット学習の活用等、家庭に対して学習方法を提案し、共通理解をしていく。